

登録コード:MH1A3300 開講年度:2026		授業科目区分	助産師コース 必修
科目名	助産診断・技術学 (産褥期・新生児期)【22M～24M】 Diagnostics and Technics in Midwifery		
担当教員	徳武 千足 他 中込 さと子・芳賀 亜紀子		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/3年 通年 集中・不定期		
単位数、講義室	2単位	遠隔授業科目	
信大コンピテンシー	該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素	授業の達成目標	
	MH22カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	保健・医療において生じている現象を分析し、科学的根拠に基づいた妊産褥婦・新生児とその家族への支援を理解することができる。	
	保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。	保健・医療の専門職者として妊産褥婦・新生児とその家族への特性に応じた知識・技術・態度を獲得し、活用できる。	
	MH23カリ・保健・看護		
	基礎的・専門的な知識と技能 看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	看護専門職者に必要な幅広い教養と基礎的・専門的な知識・技能を修得し、さまざまな状況で活用できる。	
授業で学べる「テーマ」	科学的探求力 変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		
	変化し続ける社会で派生する多様な課題に対して、地域・国際的な視点から、科学的・倫理的・道徳的・創造的に課題に対応していく探究心と、課題克服や目標達成に向けて生涯をかけて取り組む力が身についている。		
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	本授業は、助産師国家試験受験資格取得のための必須科目として開講します。 マタニティサイクルのうち、産褥期・新生児期における助産診断と技術を学習します。 本授業は、男女共同参画に関する内容を含んでいます。 本授業は、2年次に学んだ「母性看護学概論」、「母性看護健康論」、「母性看護方法論」、3年次前期に学んだ「助産学概論」の知識を前提とし、3年次後期の「助産診断・技術学」、「助産診断・技術学」と連動して相補的に学んでいく科目になります。そして本授業の内容は、4年次の「助産診断・技術学」、「助産診断・技術学」、「助産診断・技術学」、「助産学実習」、「助産学実習」における重要な基礎知識となります。 本授業は、担当教員の周産期医療における助産師としての実務経験を活かして講義を行います。		
授業計画	回（日付） 授業内容：リーディング課題（必携書下記参照） 第1～4回（1月7日） ガイダンス 【課題提示：妊産褥婦と新生児の助産診断・ケアに必要な知識（社会資源、制度、診断ツール、受胎調節法等）を深める】 産褥・新生児の事例から助産診断とケアを考える1 （ワーク・発表）： 10章、11章、 1章、2章AD 第5～7回（1月12日）産褥期に必要な教育支援： 産褥・新生児の事例から助産診断とケアを考える2 （ワーク）： 10章、11章、 1章、2章AD 第8～11回（1月14日）＜小テスト産褥期＞ 産褥期に必要な教育支援 産褥・新生児の事例から助産診断とケアを考える2・3 （ワーク・発表） 第12～14回（1月19日）産褥・新生児の事例から助産診断とケアを考える3（ワーク・発表） 第15～18回（1月21日）＜小テスト新生児期＞課題発表準備（ワーク） 妊産褥婦の健康教育（講義・演習） ： 2章、3章B2、 5章B、 4章 第19～21回（2月1日）妊産褥婦の健康教育（ワーク・発表） 第22～23回（2月3日）母乳育児支援： 14章AB（ゲスト講師） 第24～27回（2月4日）新生児蘇生法（NCPR：Aコース）： 第28～29回（2月9日）課題（発表） 第30回 （2月10日）試験・授業アンケート		
授業の進め方	授業は、演習およびグループワークを中心に進めます。能動学習による理解を深めるために事前学習を課します。 基本的知識は、母性看護学関連の講義と実習で得ていることを前提に、より実践に即し行います。		
テキスト、教材、参考書	必携書 助産学講座第5巻 助産診断技術学、医学書院 助産学講座第6巻 助産診断技術学〔1〕妊娠期、医学書院 助産学講座第7巻 助産診断技術学〔2〕分娩期・産褥期、医学書院		

テキスト，教材，参考書	助産学講座第8巻 助産診断技術学〔3〕新生児期・乳児期、医学書院 NCPR新生児蘇生法テキスト第4版、メジカルビュー社 助産学講座第3巻 基礎助産学〔3〕母子の健康科学、医学書院 プリンシプル産科婦人科学2、メジカルビュー社 参考書 ・母性看護学で活用したテキスト ・助産学講座第2巻 基礎助産学〔2〕母子の基礎科学、医学書院 ・助産学講座第4巻 基礎助産学〔4〕母子の心理・社会学、医学書院 ・新生児学入門第6版、医学書院 ・UNICEF/WHO母乳育児支援ガイド、医学書院 ・母乳育児支援スタンダード、医学書院 ・産婦人科診療ガイドライン産科編，婦人科外来編2023
成績評価の方法	小テスト・期末試験・グループワーク・発表の結果に基づいて、総合的に成績を評価します。 総合的評価の配分は、小テスト（2回）20%，期末試験50%，グループワーク・発表30%とし、60%以上の得点を合格とします。小テストは、第8回（1月14日）、第15回（1月21日）に筆記試験（30分）として実施します。 小テスト・期末試験は、産褥期・新生児期の基本的知識、助産診断およびケア、必要な助産技術の理解度を確認します。小テスト及び期末試験の結果については、実施後にフィードバックします。
成績評価の基準	小テスト・期末試験による成績評価の判定基準は、下記の通りとします。 90-100点：秀 80-89点：優 70-79点：良 60-69点：可 小テスト・筆記試験の場合、授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」と判定します。 グループワークは参加の程度、内容については、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」と判定します。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」とします。
事前事後学習の内容	事前のリーディング課題を課します。授業計画の欄を参考にして下さい。 本授業の単位修得には、90時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間60時間(2時間×30回)+自己学習時間30時間(1時間×30回)=90時間 *以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	講義や演習を通して自ら学ぶ姿勢を培って欲しい。質問や相談にはいつでも応じます。 質問への対応：徳武千足 ctokuta@shinshu-u.ac.jp，芳賀亜紀子 akihaga@shinshu-u.ac.jp オフィスアワー：随時対応（事前にメール連絡すること） 保健学科は中校舎3階にあります。